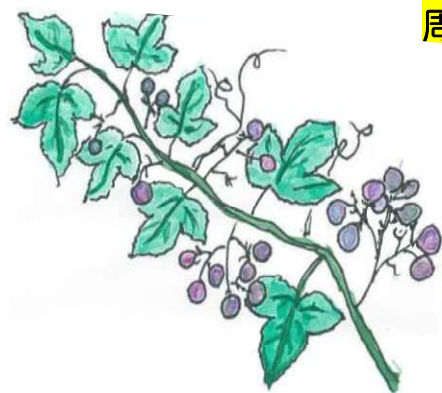


大津島データ 157世帯
人口 212人 男 85人 女 127人
高齢化率 80.1%
(令和3年7月31日現在)

題字：末兼南子さん イラスト：大津美子さん



潮流



7月17日(土)刈尾海浜清掃が行われました。刈尾自治会・若潮の会・釣り団体協議会・徳山大学等、160名近くの参加がありました。小雨が降る中での作業でしたが、若い力が大勢加わり、海浜清掃がはかどりました。

大津島刈尾海浜清掃



文Ⅱ大津島支所 原田 和保



海浜清掃後、浮き桟橋にて子供たちによる稚魚(ヒラメ)放流が行われました。子供たちの笑顔により、久々に島に元気を与えてもらえました。当日は、お足元の悪い中、大変お疲れさまでした。

磊ノ島通信

文Ⅱ渡邊 あゆ子

令和3年6月15日、大津島ふれあいセンターにて植樹祭を行いました。

徳山ロータリークラブ、社会奉仕委員会による「大津島を相橋の島に」プロジェクトの一環として、すだいたい・オリブ・ロウバイ・スイートスプリング・金木犀など、21本の苗木をいただき、ロータリークラブ会長様、社会奉仕委員会委員長正岡様、ふれあいセンターと磊の島メンバーで、植樹祭のセレモニーを行い、その後、ふれあいセンターと島食堂ひなたの周辺に全員で植樹を行いました。

21本もの木を植えるのは大変でしたが、おかげで風景が賑やかになり、見栄えがアップしたのではないかなと思います。

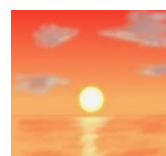
これから大切に育てようと思

いますが、島の皆さんもぜひ見に来て下さい。

大きくなるのが楽しみです、その頃私はいくつになっているのかなあ。



島に来て感じたこと



大津島支所に来て、3年目。島に来た時にびっくりしたことが三つあります。

一つ目は、皆さんが下の名前前で呼んでいたこと。後で同じ苗字が多いことが聞かされ納得しました。最初は、下の名前を呼ぶ事が失礼かな...とと思っていましたが、今では呼んでいます。

二つ目は、イノシシが普通に通り道にうろついていること。(うり坊は、足が速い。たてがみのイノシシは狂暴で特に注意)

三つ目は、とにかく虫類が大きく、その中でも超巨大なゲジゲシを発見したこと。この世にこんな虫がいるとは...。そして、ヌートリアも見ることができたこと。カピバラが小さくなったような感じで可愛いかと思いきや、牙が鋭かったこと。

島に来て心に残る出来事があります。車で刈尾から本浦へ下る途中、きれいな夕日を見ることができました。刈尾港からは、虹を見ることができました。夕日が見られたということは、支所に泊まっていることになりません。たしか台風が来そうな前日でしたが、あまりにも綺麗な景色で心が癒されました。現在は、島の人々のあたたかい言葉や優しさに救われるこの頃です。

文Ⅱ大津島支所 原田 和保

行事報告

文Ⅱ大津島コミ事務局 沖 武士



6月26日(土)、馬島1柳浦間市道で徳山大学野球部員による清掃作業が行われました。須々万にある野球部の寮で生活している一・二年生部員と監督・コーチ合わせて総勢42名に参加していただき、梅雨の真っ只中で天気が心配されるなか、当日は雨も降らずに順調に作業が進みました。



約400メートルの市道を5グループで側溝清掃・落葉の撤去・小枝の伐採・ゴミの回収等の作業を行い、高齢者では大変な力仕事も若い力で楽々とこなして行きました。

作業終了後は全員で回天記念館を見学し、同年代の若者が戦争で命を落とした事を知ること、平和な日常生活を送れることや思い切り野球ができることのありがたさを感じていただけたと思います。

顕彰会だより



8月5日(木)10時よりサンルートにて大津島出身の田中(旧姓・石丸)賢一さんによる人間魚雷回天に関する講演会が行われました。講演をお聞きになった団体は広島に本社を置く株式会社ザメディアジョン様で、代表の山近義幸様は過去に何度も大津島を訪れていて回天の他平和に関して大変造詣が深い方です。昨年に引き続き、回天に関する講演会が開催される運びとなりました。講演中、田中さんが戦時中に目の当たりにした回天の訓練や兵士たちの日常を分かり易く語っている姿がとても印象的でした。

また戦後、駐留軍の米兵との交流も大変貴重な話で参加した若手経営者の方々の反応も良く、1時間と短いながらも内容の濃い時間でした。

コロナウィルス感染予防の為、今年は島ではなく街で行いましたが、来年は再び大津島で講演会を開催できる事を願っております。

文Ⅱ回天顕彰会 内山 剛



「火事です」

通報訓練

7月27日刈尾自治会公会堂にて火事を想定して防火訓練が行われた。

防火管理責任者を屋野廣志さんからバトンタッチされた息子の郁夫さんが行なった通報訓練と消火器の種類と取扱い説明に男性7名女性4名が集まった。

通報訓練は119番へ電話をする。「火事ですか？救急ですか？」電話の向こうから消防本部の方の声が響く。「火事です。」恐る恐る答える。質疑応答が繰り返され、2名の方が実践された。

訓練をしておくこと火事の時に役に立つ。役に立つことがないことを願うばかりの訓練であった。



文＝小倉 敬子

No.40

若潮の会通信

海岸清掃

文＝佐々木 照彦

今年度から野間代表に替わり、若潮の会の代表を務めることになりました。引き続きよろしくお願いいたします。

7月17日、恒例の県磯釣り協主催「水辺清



掃・稚魚放流」が、刈尾・三ツ石地区で行われました。当日は生憎の雨模様でしたが、党内外から150人を超える参加者があり、若潮の会も15名が参加しました。お疲れさまでした。

我々はほかのグループとともに、三ツ石の海岸清掃へ。例年一番多く人工ゴミが漂着しています。先日の大雨の影響か、ペットボトルや力キパイプのみならず大型のプラスチック類やタイヤ等々、時間が限られているためすべては取り除けません。大量の人工ゴミを収集しました。その後、ボイースカウトやガールスカウトの子ども達が、ヒラメの稚魚を放流。

この事業を通じて、参加者の多くが国際的に問題となっている海洋プラスチックや身近なレジ袋等に対する問題意識を持ち、少しでもゴミの減量化や環境美化に取り組んでいけたらと思います。

また、魚と触れ合うことによって、海や魚に親しみ、魚を好きになってくれると嬉しいし、大津島を身近に感じていただけたら。

知っちょるかね

大津島ふるさとカルタ

覚えちようつか、「大津島ふるさとカルタ」とこの家にも配ったから、ひとつは有ると思うんじゃないけど。我が家は学校から二つ、家の分が一つあった。頃は平成元年とある。島のコミュニティが「あたたかい心で幸せな家庭と住みよい地域づくり」をスローガンに、その活動の一環として、島の史跡、伝統、風俗、行事、生活などを盛り込んで作ったものがある。

島の風土を見直し、より深く知り合って郷土への愛着と誇りをいっそう深めて欲しいとの願いからの活動だと、解説書にある。そしてカルタの句を島の人から募集して、絵は馬島、大津両小学校上級生と、大津島中学校生徒が描いている。

我が家でも長女が中学校、次女が小六だったので、それぞれ絵を描いている。特に亡母の句である「兵舎跡学び舎となり、第八中学」に長女が絵を描いていて思い深い。

「ほやを磨く小さな息」「ぬぐう汗ソーランエーは、夏祭り」「孫や子もこわこわ覗く車井戸」など、今では見られない風物が詠まれ、彼岸に旅立った句を



文＝松本 千恵子

作った人達の名が残る。

また、その頃の先生やその子供、駐在さんちの子供など、会えなくなつて久しい人達の名も並ぶ。皆さん、どうして居られるじやうか？

あの頃はそれなりに島の人口もあつたし、皆色んなことを頑張つちよつた。が、今では人も減つたし、猪めにええようにされて、気概も無くなるばかりじゃ。じゃが、このままじゃあいかんと立ち上がつてくれた「若潮の会」の人達や移住して来て、何とか力に思つてくれている若い人達もいる。それが、希望の芽だと思う。

そうそう、島食堂「ひなた」では、このカルタを伝票に使っている。こんな使いかたもあるんだと、若い発想力に感心する。

こうして、諦めん若い人達がいる間は、私らあも、及ばずながらも元気であって、せめて応援でも出来りゃあと思う。カルタに励まされたある日の出来事。

徳山湾見聞録

28

荒れ果てた波止場に響いていた子供たちの歓声

文＝大津島巡航 三崎 英和

大津島で釣りを楽しむために通っていた子供のころ、大津島巡航の事務所は、今は無くなりましたが、海洋青年団の倉庫として使われていた建物でした。そこで乗船券を買って島に向かうわけですが、馬島までのルートは仙島の北側を通過するもので、所要時間は1時間30分もかかっていました。

その船が出航して、仙島の北側海上に入ると、今は大分壊れている波止場がすぐに目に入ります。その奥には昭和42年まで、徳山空襲で親を亡くした子供たちなどが共同生活をしていた「希望の家」と称する施設がありました。

彼らは富田地区にある学校に通っていましたが、当時のことを知る同地区に住む人によると、海水温が上昇してくると、子供たちの中には、頭にカバンを乗せて泳いで島に

帰る子もいたそうです。南国の人が、よく頭に荷物を乗せて連んでいる映像をテレビなどで見かけることがありますが、その海上版です。

距離としては3、400m程度なので、大したことはありませんが、カバンを頭にのせて泳ぐとなると、かなりの高等技術が必要ですよ。今は多くの船舶が行き交う海道なので、そのようなことをしていたら、当局からお叱りを受けることになるかも知れない、古き良き時代の話です。巡航船は、現在は荒天の時しかこの航路は使いませんが、もしそんな機会があればその波止場を探してみてください。

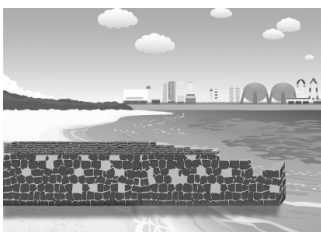


イラスト 三崎 英和

お知らせ

【次回潮流発行予定日】
11月1日 第282号

【9月～11月の主な島の行事予定】

11月14日（日）回天搭載戦没潜水艦乗員追悼式
（昨年と同様）

移動図書館 やまびこ号ジュニア

9月28日（火）、10月13日（水）

馬島11：30～ 刈尾12：20～

大津島地区社会福祉協議会からのお願い

善意銀行への寄付にご協力ください

【編集後記】

清掃活動等で子供・若者たちが島を訪れました。少しずつですが島が清浄化され、活気がみなぎってきてるようには感じます。これから台風シーズンなので皆さん台風に備えましょう。
文責：原田 和保